

令和7年6月27日
島根県総務部総務課
内田、西川
電話 0852-22-5015

なかむらとしろう

中村俊郎氏の島根県功労者表彰式について

中村ブレイス株式会社 会長中村俊郎氏におかれましては、文化財保護に多大な貢献をされ、特に、石見銀山の世界遺産登録実現に大きな功績を残されました。

また、これまで60軒以上の古民家を再生し、大田市大森銀山重要伝統的建造物群保存地区での町並みの保全に尽力されたことに加え、近年では、旧商家を活用した島根県立大学のサテライトキャンパスの開設にあたり、主導的な役割を果たされるなど、長年にわたり地域に大きく貢献されています。

県では、中村氏のこれまでの功績を讃え、島根県功労者表彰を授与することとし、下記のとおり表彰式を執り行います。

記

- 1 日 時 令和7年7月3日（木）10：00～10：20
- 2 場 所 島根県立大学・島根県立大学短期大学部サテライトキャンパス
「石見銀山まちを楽しくするライブラリー」（大田市大森町ハ94）

※ 会場は別紙2による
- 3 被 表 彰 者 中村俊郎（なかむら としろう）
- 4 内 容 島根県功労者表彰式、記念撮影・懇談
- 5 プロフィール 大田市大森町出身
昭和23年2月20日（77歳）
中村ブレイス株式会社 会長（前代表取締役）
- 6 主 な 経 歴 1974(昭和49)年 中村ブレイス創業
1982(昭和57)年 中村ブレイス法人化 代表取締役に就任
2018(平成30)年 中村ブレイス株式会社 会長に就任
※功績と主な経歴の詳細は別紙1のとおり
- 7 そ の 他 懇談終了後、囲み取材（10分程度）を予定しています。

【参考】島根県功労者表彰について

各種の活動を通し県民に勇気と感動を与え、県勢発展に貢献するなど功績が顕著な方々を表彰しています。（これまでに40名・団体が受賞）

中村俊郎氏に対する島根県功労者表彰について

1. 功績

(1) 石見銀山世界遺産登録実現に対する功績

- ・島根県教育委員委員長として、遺跡のある大田市大森町の住民として、民間の立場からも世界遺産登録に向けて取組を進め登録実現に尽力
- ・世界遺産登録後も、石見銀山遺跡調査活用委員会の委員として、県や大田市に対して今後の石見銀山のより良い調査研究・活用に向けた指導・助言を行うとともに、私財を投じて、石見銀山に関連する絵巻、文献、丁銀等の文化財を収集し、貴重な文化財の散逸防止に寄与

(2) 大森地区の古民家再生による町並みの保全に対する功績

- ・大森町内の空き家（古民家）を買取・改修して、大森銀山重要伝統的建造物群保存地区での古民家再生による町並みの保全に尽力

(3) 島根県立大学のサテライトキャンパス開設に対する功績

- ・平成 31 年 4 月、中村氏が公立大学法人島根県立大学に対して旧朝鮮銀行総裁の松原純一氏の生家を、学生の実践的な学びの場や地域住民の交流の場となる「学びの拠点」として活用することを提案し、これに賛同した同法人と中村ブレイス株式会社との間で、同年 9 月に包括連携協定を締結
- ・以降、双方で協議を重ね、旧松原邸を同大学のサテライトキャンパスに位置づけ
- ・整備に当たっては、旧松原邸の買取り費用と多額の改修経費をすべて中村ブレイス株式会社の負担とするなど、同社の会長として、構想段階から整備に至るまで主導的な役割を發揮
- ・令和 5 年 4 月に「石見銀山まちを楽しくするライブラリー」としての施設整備が完了。大学の学生によるカフェ経営や地域の方向けの公開講座、ゼミでの授業利用など多くの活動が展開され、地域における実践的な学びの拠点として人材育成に寄与

2. 主な経歴

1948(昭和 23)年	島根県大田市大森町生まれ
1966(昭和 41)年	京都の義肢製作所に入社
1971(昭和 46)年	近畿大学短期大学部商経科卒業
1972(昭和 47)年	モダン・オーソペディック社（カリフォルニア州）入社
1974(昭和 49)年	中村ブレイス創業
1982(昭和 57)年	中村ブレイス法人化 代表取締役就任
1998(平成 10)年	島根県教育委員会委員に就任
2000(平成 12)年	島根県立看護短期大学客員教授（平成 14 年まで）
2001(平成 13)年	島根県教育委員長に就任（平成 18 年まで）
2004(平成 16)年	島根県立大学参与（平成 18 年まで）
2018(平成 30)年	中村ブレイス株式会社 会長に就任

島根県立大学・島根県立大学短期大学部
サテライトキャンパス

超実践の学び場

石見銀山

まちを楽しくする

ライブラリー

2023 年4 月に石見銀山の町 島根県大田市大森町にオープンした島根県立大学のサテライトキャンパス。一般の方にもライブラリーカフェ兼コワーキングスペースとして公開している。木造の日本家屋の良さを生かしながら現代的価値観にも対応出来るデザインを目指した。住民、観光客、学生の交流拠点とすることで新しい人の流れと活気を創出することを目的としている。施設内には書架（絵本約200 冊、一般書約300 冊）カフェ、コワーキングスペース、ミーティングラウンジ、ギャラリー、プール、ゼミスペース等を備えている。蔵書の選書、ギャラリー活用、カフェの運営、グラフィック、地域の方との連携イベント、HP 制作、情報発信、等の全てを学生が行う実践の学びの場ともなっている。



行燈の間

ライブラリーに並ぶ 200 冊以上の書籍は、学生たちが自ら著名人に選書を依頼し、人生に影響を与えた一冊を揃えた。



ラウンジ・コワーキングスペース

2階はコワーキングスペースが8席とゆったり寛げるラウンジに。



えほんのどうくつ

石見銀山の間歩をイメージした本棚で探検気分であほん探しを楽しめます。



プール広場

元々井戸があった場所にタイルを敷いて水遊びができるプールに。

館内紹介